



日本分析化学会九州支部

支部ニュース

第23号 2011年2月

九州支部ウェブサイト

http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/

2010年度 日本分析化学会九州支部
〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1
福岡大学 理学部 化学科

支部ニュース 第23号 目次

新旧支部長からのご挨拶	
2010 年度支部長 山口 敏男	2
2011 年度支部長 片山 佳樹	3
2010 年度支部活動報告	4
夏季セミナー	5
支部見学会	7
本部関連	8
雑文「生涯分析談話会」田端 正明	9
今後の支部活動計画	10

新旧支部長からのご挨拶

❖ 支部長退任のご挨拶 ❖

去る2月19日(土)第2回常任幹事会を無事に終了することができ、平成22年度の主要な業務を終えることができ安堵しています。これも副支部長である神崎先生、柳様、庶務幹事の塩路先生、会計幹事の吉田先生、また、常任幹事の先生方や本部関連役員の皆様、若手講演会や夏季セミナーの若手の世話人の先生方のご協力のおかげです。この紙面を借りて心よりお礼を申し上げます。



く、異分野横断的であり、また、大学と企業が協力して産学連携事業が進めやすい分野であること、種々の分析化学手法の開発に伴い、バイオやナノ、界面といった独自の学問分野に発展することなど、分析化学の潮流を世の中に認知していただくために情宣活動を挙げました。そのために、神崎副支部長に九州支部のホームページを刷新していただきました

(http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/)。第二に、九州支部のよき伝統である若手活動をさらに奨励・

昨年、就任の挨拶で今年度に力を注ぎたい項目を挙げました。第一に、分析化学という学問体系は幅広

充実し、次世代を担う若手研究者の育成するために、春の若手講演会、夏の夏季セミナーを積極的に援助しました。この九州支部の活動を「ぶんせき」10月号のとびら欄で紹介しました。第三に産学連携事業や社会還元を推進するために、浜瀬実行委員長には分析化学講習会をお世話いただきました。実行委員や幹事会社や協力会社を始め、特に今年度は財団法人九州大学学術研究都市推進機構（OPA CK）の財政的援助を頂き、例年にない分析化学講習会を開催することができました。さらに、神崎副支部長には機器分析ワークショップを、柳副支部長には支部講演会や見学会をお世話していただきました。協賛企業のご協力のもと、機器分析ワークショップは福岡、

鹿児島、熊本、北九州、長崎(平成23年3月)で開催することができました。各事業の内容については、今後いろいろな角度から検討するべきこともありますが、九州支部の事業として継続していくことが望ましいと思います。

平成23年度は、片山支部長のもとで九州支部を更に発展させていただくことをお願いして、退任の挨拶にかえさせていただきます。どうも1年間ありがとうございました。

〔福岡大学・山口 敏男〕

❖ 支部長就任のご挨拶 ❖

平成23年度日本分析化学会九州支部長を仰せつかることになりました九州大学の片山と申します。一言ご挨拶申し上げます。

私は、1987年に九州大学で博士号を取得後、熊本の隣同仁化学研究所でお世話になり、1996年に九州大学工学研究院応用化学部門に助教授として赴任、2002年に教授を拝命して現在に至っております。子供のころから転々としていましたが、気づけば九大での生活が一つところにいる最長期間となってしまいました。大学院から上野景平先生の研究室に入れていただき、高木誠先生のご指導で学位を取得しましたので、分析化学が専門ですと言いたいのですが、現在の私の専門は、化学をベースにした医用工学で、その中の診断や創薬関連のツールの研究で分析化学にやっとかかわらせていただいているという状態です。そんな私に支部長の大役が務まるのかはなはだ不安ではございますが、九州の分析化学になにがしかのお役に立てることはないか、



精一杯考えさせていただきたいと存じます。分析化学は他の化学と明確に異なる部分があります。それは、研究する対象に、必ずそれを使う使い手が存在するという事です。すなわち、分析化学は、そのニーズや潜在的シーズの把握なしには存在しないということではないでしょうか。したがって、使い手側の領域に対する理解なしに分析化学の研究はできないはず

で、おのずと分析化学は分野を超えた学問であるべきではないでしょうか。ですので、できれば、種々の分析化学の使い手側の分野の理解の一助となるような活動ができればと現在のところ、漠然と考えております。何分力不足でもございますので、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。1年間、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

〔九州大学・片山 佳樹〕

2010年度支部活動報告

❖ 第23回分析化学若手の会 春の講演会 ❖

期日：2010年5月22日
 会場：福岡女子大学付属図書館1階視聴覚室
 世話人：石川 洋哉（福岡女子大学）
 ※詳しくは支部ニュース22号をご覧ください

❖ 第47回化学関連支部合同九州大会 ❖

主催：高分子学会九州支部、繊維学会西部支部、日本農芸化学会西日本支部、化学工学会九州支部、日本化学会九州支部、有機合成化学協会九州山口支部、日本分析化学会九州支部、電気化学会九州支部

期日：2010年7月10日

会場：北九州国際会議場（北九州市）

依頼講演：（支部推薦）「光学異性体を区別するアミノ酸次世代分析装置の開発と医療展開」（九州大学・浜瀬 健司）

九州分析化学ポスター賞：

橋本 裕輝（福岡大学薬学部）「Fluorous Scavenging Derivatization (FSD) 法による試薬ピークの検出されない高極性有機酸の蛍光誘導体化—HPCL 分析」

ユ ジョンテ（九州大学大学院工学府）「カーボンナノチューブでコーティングされたシリカゲル粒子の作成及び液体クロマトグラフィーへの応用」

船津 貴洋（北九州工業高等専門学校）「酸化チタンを用いたプロテインキナーゼ基質アレイの開発」

三谷 俊介（九州大学大学院理学府）「シリカの溶解におよぼす有機物の影響：カテコール系化合物」

長尾 亜都紗（九州工業大学大学院情報工学府）「特異なピオチン化反応を利用したタンパク質のアフィニティー精製技術の開発」

上元 純平（九州大学大学院工学府）「細胞内シグナルを指標とするがん診断ペプチドアレイのための無吸着表面の探索」

❖ 第51回分析化学講習会 ❖

主催：日本分析化学会九州支部

共催：福岡市九州大学学術研究都市推進機構、日本化学会九州支部、電気化学会九州支部、日本薬学会九州支部、日本食品科学工学会西日本支部、日本農芸化学会西日本支部、日本栄養・食糧学会九州・沖縄支部、日本臨床化学会九州支部、日本水環境学会九州支部、福岡県環境計量証明事業協会

期日：2010年8月4日～6日

会場：九州大学伊都キャンパス・福岡市産学連携交流センター

実行委員長：浜瀬 健司（九州大学）

※詳しくは支部ニュース22号をご覧ください

❖ 2010年日本化学会西日本大会 ❖

主催：日本化学会九州支部・中国四国支部

共催：日本化学会、日本薬学会九州支部、日本分析化学会九州支部、有機合成化学協会九州山口支部、高分子化学会九州支部、電気化学会九州支部、日本セラミックス協会九州支部、農芸化学会西日本支部
 後援：熊本国際観光コンベンション協会、熊本大学

期日：2010年11月6日・7日

会場：熊本大学黒髪南キャンパス

❖ 2010年度支部講演会 ❖

期日：2010年11月13日 10:00～12:00

会場：福岡大学文系センター4階第4会議室

講演：

「流れ系を用いる化学・バイオセンサの高機能化に関する研究」(2010年度九州分析化学会賞受賞講演)
 今任 稔彦（九州大学）

「固液界面でタンパク質の機能をその場観察する：スラブ光導波路分光法を用いた紫外可視吸収スペクトルのその場測定」松田 直樹（産業技術総合研究所）

「三井化学分析センターの紹介とトピックス」柳雅之（三井化学）

※このあと支部見学会が開催されました（後述）

❖ 2010年度 機器分析ワークショップ ❖

本年度の機器分析ワークショップでは、例年とは形態を変え、4社を同一の日に開催（1社につき1.5～2時間）いたしました。会場は福岡および鹿児島で1日ずつ行いました。1日で複数の企業のワークショップに参加できることもあり、前年度以前と比べて述べ参加人数は概ね多く、また参加者のアンケート結果は良好な反応だったようです。実施企業側からも、時間数が短いことで負担が軽減され、その分中身の濃い講演ができたとの声もありました。またこれに加え、(株)ジェイ・サイエンス西日本主体によるワークショップ(主催は九州支部)が2件(熊本会場・北九州会場)開催されました。本ワークショップは実施企業の尽力によって成り立っており、この場を借りて感謝申し上げます。

主催：日本分析化学会九州支部

福岡会場

期日：2010年11月10日

会場：福岡大学文系センター棟4階第4会議室

鹿児島会場

期日：2010年11月24日

会場：鹿児島大学産学官連携推進機構1階ディスカッションルーム

〔鹿児島大学・神崎 亮〕

❖ 会議等 ❖

**▼ 九州分析化学会賞・九州分析化学奨励賞
選考委員会**

期日：2010年5月29日

会場：福岡大学理学部会議室

選考委員長：能田 均（福岡大学）

※2010年度九州分析化学会賞受賞者1名、九州分析化学奨励賞受賞者3名については、支部ニュース22号をご覧ください

▼ 2010年度第1回常任幹事会

期日：2010年6月26日

会場：福岡大学文系センター2階第1会議室

▼ 学会賞等候補者推薦委員会

期日：2010年11月12日

会場：福岡大学文系センター16階特別室

▼ 2010年度幹事会

期日：2010年11月12日

会場：福岡大学文系センター15階第7会議室

▼ 2010年度支部講演会

期日：2010年11月13日

会場：福岡大学文系センター4階第4会議室

▼ 2010年度第2回常任幹事会

期日：2011年2月19日

会場：福岡大学文系センター2階第1会議室

▼ 第72回分析化学討論会第1回実行委員会

期日：2011年2月19日

会場：福岡大学文系センター2階第1会議室

※第1回実行委員会は、実行委員の皆様を代表して常任幹事の皆様にお集まりいただきました

❖ 第28回 九州分析化学若手の会 夏季セミナー ❖

2010年7月30日(金)・31日(土)の1泊2日の日程で、雲仙みかどホテル本館を会場として第28回九州分析化学若手の会夏季セミナーが開催された。この夏季セミナーは1983年から開催されており、九州地区における分析化学関連の若手教員や大学院生を中心に情報交換と親睦を目的に講演会・ポスター発表及び情報交換会などを行っている。今回の参加者数は、招待参加者を含め計160名となった。

世話人である大渡（佐賀大院工）による開会宣言

の後、第47回化学関連支部合同九州大会で優秀ポスター賞の受賞者のうち本セミナーに参加した4名、および第26回緑陰セミナー 優秀ポスター賞受賞者1名の計5名による模範ポスター講演が行われた。発表者は、(九大院工) 上元 純平君、(福岡大薬) 橋本 裕輝君、(北九州高専) 船津 貴洋君、(九大院理) 三谷 駿介君、(九大院農) 小林 優多郎君であり、それぞれ(九大院工) 内村 智博先生、(九大院薬) 浜瀬 健司先生、(鹿大院理工) 神崎 亮先

生、(九大院理) 栗崎 弘輔先生、(九大院工) 森健先生に座長をご担当いただいた。

模範ポスター講演の終了後、一般ポスター発表が行われた。発表件数は83件であり、各発表に対して活発な議論が行われた。100分のポスター発表の後、恒例により参加者全員による投票が行われた。集計の結果、(九大院薬・M2) 上野 恭子君、(九大院薬・M1) 大山 翼君、(福岡大薬・B5) 竹下龍次君、(九大院生資環・M1) 近藤 和也君、(九大院生資環・M1) 藤 麻衣子君、(九大院工・M1) 亀田 真吾君、(九大院工・M1) 大浦 慶君、(九大院工・M1) 齊藤 寛孝君、(福岡大理・M2) 藤村 恒児君、(九大院理・M2) 倉本 宏之君、(九大理・B4) 甲斐 さつき君の計11名が九州分析化学若手賞に選ばれた。

休憩の後、今年度支部奨励賞受賞者3名の受賞講演が行われた。まず、(九大院工) 宗 申明先生に座長を務めていただき、(九大院シス生) 戸井田 力君による「リン酸化酵素活性の計測プローブおよび、癌細胞の特異的イメージング技術の開発」の講演が行われた。次に、(大分大工) 井上 高教先生に座長を務めていただき、(九大院工) 牧 知治君による「ペリレン骨格を基盤としたヒドロキシラジカル計測用蛍光プローブの開発」の講演が行われた。最後に、(福大薬) 轟木堅一郎先生に座長を務めていただき、(九大院薬) 三次 百合香君による「D-セリン及びD-アラニンの二次元 HPLC 同時分析法開発

と哺乳類体内含量制御機構の解析」の講演が行われた。オリジナリティーや今後の展開に関して、会場から活発な質問がなされた。受賞者の方々の今後のますますの活躍と将来の支部への貢献が期待される。受賞講演の後、若手の会総会が開かれた。本セミナーの世話人である大渡(佐賀大院工)により、第23回九州分析化学若手の会 春の講演会(世話人:福岡女子大 石川先生)の開催報告がなされた。さらに、5月に開催された分析化学若手交流シンポジウム@松江についても参加報告がなされ、続けて、年間行事と会計について報告がなされた。

夕食後、今年度支部奨励賞受賞者3名と本セミナーのポスター賞である九州分析化学若手賞の表彰式を行った。福岡大学大学院理学研究科の山口敏男支部長より、表彰状と副賞が手渡された。さらに、支部長より挨拶をいただいた。その後、研究室紹介を行い、親睦を深めた。さらに、教員による来季開催世話人などの打ち合わせ会議を行った。

2日目は、朝食後に2件の招待講演を行った。代表世話人である(佐大院工) 大渡 啓介の座長の下、(北九州市大・国際環境工) 上江洲一也 先生による「フッ素選択性 Zr(IV)表面担持樹脂の開発」についての講演が行われた。講演は演題にとどまらず、5年間手がけてようやく実用化がなされた泡消火器の開発など、最近10年間の研究概念、方向性、今後の展開などについて触れられた。2件目は(佐大院工) 高椋 利幸先生の座長により、(佐賀県窯業技



術センター)一ノ瀬弘道先生による「ペルオキシチタン系光触媒の開発から応用まで」についての講演が行われた。ここでも開発における苦労などが紹介され、会場からも質問がなされた。オフたちの招待講演者とも、数多くの受賞をされ、実績を積んだ方であるが、そういった華やかな一方で、地道に努力を重ねて栄光をつかんだことについて、学生が何かしら感じ取ってくれば主催者として幸いである。

2件の招待講演の後、閉会式が行われた。閉会式では、来年度代表世話人の井倉先生(九州大学大学院農学研究院)が挨拶をされ、集合写真を撮った後、全プログラムを終了した。

本セミナーは数年来150名を越える規模の大きな宿泊型セミナーであり、円滑な運営は分析化学九州支部からの助成によって支えられています。また、今回は支部の財政悪化に伴い、助成を縮減される中で、財団法人 日学科学技術振興記念財団から協賛

という形でセミナーの助成金をいただき、また多数の企業から広告費の形で支援をいただきました。セミナーの開催に関するHP公開などの対応の遅れなど開催者側の不手際も少なからずありましたが、本セミナーがこのような支援によって無事開催できたことについて、この場をお借りして代表世話人より厚くお礼申し上げます。また、繁雑期にもかかわらず、宿泊や講演会場利用といったセミナー開催をお認めいただき、好意的に支援していただきました雲仙みかどホテル本館の皆様方に感謝申し上げます。参加者へのアンケート結果も概ね好評で、主催者側として安堵しています。最後に、講演者、座長の皆様、参加いただいた多くの方々、開催にご協力くださった関係各位にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

〔佐賀大学・大渡 啓介〕

❖ 2010年度 支部見学会 ❖

2010年11月13日(土)、午前中に福岡大学で行われた支部講演会に引き続いて、同日午後、貸切バスにて大牟田市に移動し、大牟田市の中心部にある三井化学(株)大牟田工場および(株)三井化学分析センター大牟田分析部において工場見学会が開催された。

見学会に先立ち、まず三井化学分析センターの大牟田分析部長による挨拶があり、それに引き続いて、DVDを用いた三井化学グループの紹介や三井化学大牟田工場の概要説明と主力製品の紹介が行われた。次いで、(株)三井化学分析センターの分析業務内容や技術トピックスに関する紹介があった。

その後、参加者は工場専用のマイクロバスに乗り込み、工場敷地内の見学ルートに沿って工場内施設を見学した。三井化学大牟田工場は1912年に操業を開始し、もうすぐ100年を迎える古い工場であるが、建設当時は東洋一といわれた建物や構内専用鉄道(旧三池炭鉱専用鉄道)など近代化遺産に指定された建造物や鉄道が現役で活躍していることに見学者は興味深い様子であった。化学工場としては珍しく起伏の多い構内道路沿いから、大牟田工場の主力

製品であるウレタン原料やメガネレンズの原料の他、環境にやさしい農薬やディーゼルエンジン用NOx還元添加剤等の製造プラントを見学した。

バスによる工場見学の後、2つの班に分かれて、工場敷地内にある(株)三井化学分析センター大牟田分析部の見学が行われた。同分析部では三井化学大牟田工場で生産される製品の出荷検定分析や工程分析を行うだけでなく、NMRやMS等の大型分析機器も所有して研究開発部門のサポートも行っている。各分析室ともに整理整頓がよく行き届いていることに感心する声が多く聞かれた。

見学会終了後には、工場で製造している医薬原料タウリンが使用されている栄養ドリンクが見学者全員に配られ、一日の疲れを取るのに一役買っていた。最後に、山口支部長から今回の見学会の感想とお礼の言葉があり、無事見学会を終了した。

〔三井化学・柳 雅之〕

本部関連

❖ ICAS 2011 ❖

IUPAC 2011 国際分析科学会議 / IUPAC International Congress on Analytical Sciences 2011 (略称: ICAS2011)

主催: 社団法人日本分析化学会, 国際純正・応用化学連合

協賛: 社団法人日本化学会分析化学ディビジョン, 社団法人日本化学会, 社団法人日本薬学会, 社団法人日本生化学会, 社団法人応用物理学会, 社団法人計測自動制御学会, 社団法人高分子学会, 社団法人電気化学会, 本環境学会, 日本質量分析学会, 社団法人日本農芸化学会, クロマトグラフィー科学会, 化学とマイクロ・ナノシステム研究会, 日本電気泳動学会 (いずれも希望)

後援: 京都市, 科学技術振興機構, 日本学術会議 (いずれも希望)

母体団体: 国際純正・応用化学連合 (IUPAC: International Union of Pure and Applied Chemistry)

2011年5月22~26日、国立京都国際会館

組織委員会委員長: 寺部 茂、副委員長: 垣内 隆、服部 重彦、渡會 仁

事務局連絡先: 京都大学工学研究科材料化学専攻内 ICAS2011事務局 大塚浩二

〒615-8510 京都市西京区京都大学桂

FAX: 075-383-2450

E-mail: ICAS2011_secretary@anchem.mc.kyoto-u.ac.jp

Website: <http://www.icas2011.com/>

〔「ICAS だより」より〕

❖ 入会を歓迎します ❖

あなたのお近くに日本分析化学会への入会を考えていただけそうな方がいらっしゃいませんか?是非、入会をお誘い下さい。支部の事務局へご連絡頂ければ入会案内をお送りします。また、入会ご検討中の方に対して、要望があれば、会長より支部を通じて機関誌の無償配布が行われるそうです。日本分析化学会の会員拡充にどうぞ協力下さい。(担当: 庶務幹事・塩路)

❖ 日本分析化学会 第60年会 ❖

会期: 2011年9月27~29日

会場: 東京工業大学大岡山キャンパス

オンライン講演申込開始: 2011年4月20日

オンライン講演申込締切: 2011年6月15日

❖ 第72回分析化学討論会 ❖

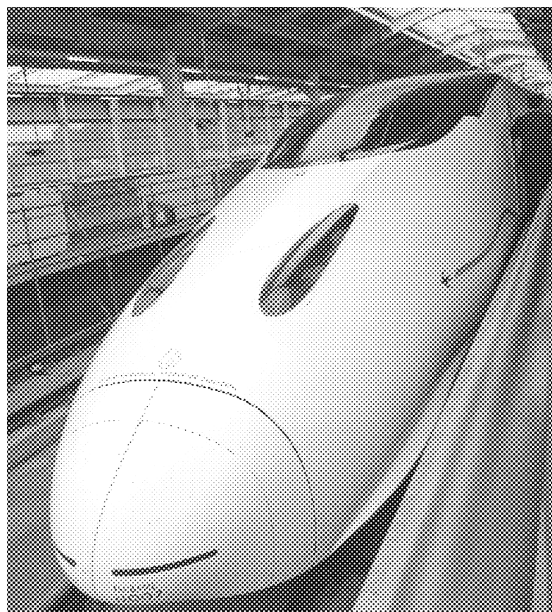
本年度は ICAS 2011 が開催されるため、分析化学討論会は開催されません。次回 72 会討論会は九州支部 (実行委員長・鹿児島大学 肥後盛秀) が主体となって開催されます。(後述)

❖ 支部からの役員 ❖

理事: 山口 敏男 (福岡大学)

代議員: 今坂 藤太郎 (九州大学)、片山 佳樹 (九州大学)、神崎 亮 (鹿児島大学)、黒木 広明 (第一薬科大学)、高椋 利幸 (佐賀大学)、竹中 繁織 (九州工業大学)、能田 均 (福岡大学)、松井 利郎 (九州大学)、柳 雅之 (三井化学)

編集委員: 「ぶんせき」浜瀬 健司 (九州大学)、「分析化学」梅林 泰宏 (九州大学)、「Analytical Sciences」原田 明 (九州大学)



❖ 生涯分析懇談会 ❖

雑文「生涯分析談話会」

病院やお店などで時々「心訓福沢諭吉翁」を見ます。見るたびに事業者が心の支えとしているのだなと思って何気なく読んでいます。7つのことが書いてありますが、その最初は「一、世の中で一番楽しく立派なことは一生を貫く仕事を持つと云う事です」。なるほど医者はそのに該当するのだなと思ったりしています。しかし、研究者はどうであろうかと自問したことがあります。一生貫いて研究できるであろうか。ノーベル賞受賞者などは一生研究に専念しておられるようですが。退職し現役を離れると一般的に研究を続けることは難しくなります。研究施設、人手、予算など皆無ですから自然と研究から遠ざかります。多くの人は、別の道を第二の人生と称して新たな道を歩んでおられるようです。素晴らしいなと思って見えています。

さて、本人がいざ退職する時期になると思いは複雑です。長い間付き合ってきた研究仲間とも疎遠になり、新しい道もなかなか見つからないし、また事業も始められません。あまりにも目先の大学の雑務に追われすぎたかなと思う時もあります。無為に老後を過ごしていくような気がします。

退職後は研究はできないとしても、研究の心を持ち続け、今まで注いできた分析化学会の仲間との交流を何とか続けられないかと思い、「生涯分析談話会」を、長谷川先生（東京理科大学名誉教授）、小熊先生（千葉大名誉教授）、赤岩先生（群馬大名誉教授、元分析化学会会長）、平井先生（東京都市大学名誉教授）、中村洋先生（東京理科大学、分析化学会会長）の協力を得て昨年立ち上げました。分析化学会で中村会長が始められた会長直属の「〇〇人生談話会」の一つです。第一線を離れると学会に参加しても次第に顔見知りの方が少なくなってきます。これでは寂しいと思い、分析化学会年会開催時に「生涯分析談話会」の講演会を開催することにいたしました。ここでは退職された方に、現役時のご自身の研究や大学・会社などについて講演をお願いしています。研究のきっかけや、着想、そして学会などでの反応とその後の展開などを気楽に話していただきます。若い研究者にとっても先人の黎明期の分析への取り

組みは大いに参考になると思います。

第1回「生涯分析談話会」の講演会は9月15日、仙台で日本分析化学会第59年会の学会会場で開催されました。中村洋日本分析化学会会長の挨拶に続いて、四ッ柳隆夫先生（東北大学名誉教授、元分析化学会会長）が「物質との対話—分子システム機能の創発論とシンプルテクノロジー、—新たな可能性を切り拓く感度と選択性をめぐって—」の題目で講演をされました。表題から予想されるように、先生は分析化学の研究成果を紹介されながら、研究を進める上での考え方、哲学を話されました。いくつかを紹介すると、「新測定法は、前人未踏の世界へ分け入れる自分（人）だけが最初に手に入れたパスポートである」。「感度と選択性」の問題では、「普遍的な学問をブレイクする研究が重要であり、物質と場の一致が機能創発を生み、そのチャンスは準備のできた者にくる」。「持続可能な社会をつくる際に、計測アプローチは、常に変わらぬ本道であり、目前に広がる夢の多いフロンティアである」。このような含蓄に富んだ講演であり、生涯分析談話会の第1回を成功裡に終えることができました。第2回は2011年9月、日本分析化学会第60年会（東京）で学会初日午後4時（予定）に赤岩先生に、「元素普存則との出会いから大学行政まで」（仮題）を講演頂く予定です。その後懇親会も致します。

「生涯分析談話会」は退職しても学会に参加しやすい環境をつくり、分析の仲間たちが楽しく交流する機会になることです。分析化学会は一生続けられる学会であり、分析化学が「心訓福沢諭吉翁」の第一項にふさわしいものになることを願っています。

この会は、会費無料、年齢制限はありません。現役の人も是非講演会・懇親会にご参加ください。雑文を読まれ、一瞬でも微笑んで頂いたら。かすかでも仲間意識を持って頂けたら幸いです。ご加入・連絡ください。2015年の九州での分析年会時にも開催する予定です。

〔佐賀大学・田端 正明

tabatam@cc.saga-u.ac.jp〕

今後の支部活動計画

❖ 2011年度支部活動・事業予定 ❖

▼ 外国人講演会

主催：日本分析化学会九州支部

期日：2011年5月2日 16:00～17:00

会場：九州大学理学部2階化学科第3講義室

Structural and thermodynamic evidence for allosteric relaxed-state symmetry, Rudiger Ettrich (Academy of Sciences of the Czech Republic)

連絡先：梅林 泰宏（九州大学）

yumeb@chem.kyushu-univ.jp, 092-642-2582

▼ 第24回九州分析化学若手の会春の講演会

期日：2011年5月28日 13:30～

会場：九州大学伊都キャンパス総合学習プラザ

講演者：丹羽 修（産業技術総合研究所）、神谷 典穂（九州大学）、轟木 堅一郎（福岡大学）、天日 美薫（九州環境管理協会）

世話人：宗 申明（九州大学）

soh@cstf.kyushu-u.ac.jp, 092-802-2891

▼ 第18回クロマトグラフィーシンポジウム

主催：クロマトグラフィー科学会

共催：日本分析化学会九州支部

協賛：日本分析化学会、日本薬学会、日本化学会（ほか、全て予定）

期日：2011年6月2日～4日

会場：福岡大学

実行委員長：山口 政俊（福岡大学）

masayama@fukuoka-u.ac.jp

TEL: 092-871-6631 内線 6619, FAX 092-863-0389

▼ 第48回化学関連支部合同九州大会

期日：2011年7月9日

会場：北九州国際会議場（北九州市）

代表世話人：伊藤 芳雄（九州大学）

qsibutcf@chem.kyushu-univ.jp, 092-642-3574

依頼講演：（支部推薦）「生命現象解明のための新しい蛍光プローブの開発」（九州大学・王子田 彰夫）

※発表申込期間：3月7日～4月1日、

予稿原稿締切：5月13日

▼ 第29回九州分析化学若手の会夏季セミナー

期日：2011年7月28日～29日

会場：国民宿舎めかり山荘

世話人：井倉 則之（九州大学）

igura@agr.kyushu-u.ac.jp, 092-642-3016

▼ 第52回分析化学講習会

日時：2011年8月3日～5日

会場：九州大学伊都キャンパス、福岡市産学連携交流センター

実行委員長：吉村 和久（九州大学）

kazz@chemrc.scc.kyushu-u.ac.jp, 092-642-3905

❖ 2011年度支部執行部・役員 ❖

支部長：片山 佳樹（九州大学）

次期支部長：甲斐 雅亮（長崎大学）

副支部長：井原 敏博（熊本大学）、

池上 天（同仁化学研究所）

監査：山口 敏男（福岡大学）、柳 雅之（三井化学）

庶務幹事：村田 正治（九州大学）

会計幹事：森 健（九州大学）

常任幹事：九工大・福教大原田 雅章（福岡教育大学）、

九大院工今任 稔彦（九州大学）、九大院理吉村 和久（九州大学）、

九大院薬・第一薬大王子田 彰夫（九州大学）、九大院農・九産大大浦 博樹（九州産業大学）、

九大筑紫・近大九州工原田 明（九州大学）、福岡大安藤 功（福岡大学）、

佐賀野口 英行（佐賀大学）、長崎・熊本黒田 直敬（長崎大学）、長崎・熊本

戸田 敬（熊本大学）、大分・宮崎馬場 由成（宮崎大学）、鹿児島・沖縄富安 卓滋（鹿児島大学）、企業・

宜公庁森山 慶一（ジェイ・サイエンス西日本）

❖ 第72回分析化学討論会 ❖

第72回分析化学討論会(2012年度)開催は九州支部が担当します。今回は鹿児島大学で開催いたします。

主催：第72回分析化学討論会実行委員会

期日：2012年5月19日～20日

会場：鹿児島大学郡元キャンパス(工学部)

実行委員長：肥後 盛秀(鹿児島大学)

実行副委員長：片山 佳樹(九州大学)、

甲斐 雅亮(長崎大学)

特別顧問：脇田 久伸(福岡大学)、

奥村 稔(島根大学)

オンライン登録委員：満塩 勝(鹿児島大学)

実行準備委員会(現地実行委員)：肥後 盛秀(委員長)、大木 章、神崎 亮、蔵脇 淳一、児玉 谷 仁、富安 卓滋、中島 常憲、中武 貞文、満塩 勝、吉留 俊史

本討論会の第1回の実行委員会が、2011年2月19日、福岡大学にて行われ、期日や会場などが決定されました。討論主題と依頼講演、シンポジウムや展示会、懇親会については検討中であり、追ってお知らせいたします。討論会の開催には支部の皆様のお力添えが必要です。なにとぞ、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

今後の日程

会告：「ぶんせき」2011年9月号および

2012年4月号

オンライン講演申込：2011年12月14日14時

～2012年1月25日14時

講演要旨入力締切：2012年3月7日14時

❖ 各賞推薦依頼および規定 ❖

▼ 九州分析化学会賞応募規定(抜粋)

対象者：原則として九州在住の日本分析化学会の正会員にして、分析化学に関する研究、教育及び九州支部の運営において功績が顕著であり、九州の分析化学の発展に多大なる貢献をした者で、受賞の年の1月1日現在、20年間以上引き続き本会会員であり、満65歳以下の者。

必要書類・締切：推薦者はA4 1枚の推薦書(指定

用紙)及び被推薦者の業績目録、被推薦者本人による業績内容の説明文(図表等を含めA4 5枚程度、教育・支部運営についてA4 1枚程度、英文可)の正本1部、写し9部(計10部)を4月末日までに支部長に送付。

▼ 九州分析化学奨励賞応募規定(抜粋)

対象者：原則として、九州に在住する日本分析化学会会員で、受賞年度の4月1日において満30歳未満の者。ただし、修士課程(博士前期課程)及び博士課程(博士後期課程)に在籍する社会人及び外国人留学生にあつては満35歳未満の者。非会員は受賞時まで日本分析化学会の入会申請をしなければならない。

必要書類・締切：推薦者はA4 1枚の推薦書(指定用紙)、被推薦者の論文目録、講演題目のリスト及び論文等の別刷りの一部(複数可)、さらに被推薦者本人による研究内容の説明文(A4 2枚、英文可)及び図表等(5枚程度)の正本1部、写し8部(計9部)を指定期日(受付期間：4月1日～30日)までに支部長に送付。

※募集要項の詳細は支部のホームページをご覧ください。申請に必要な書類ファイルもダウンロードできます。

❖ 会員の声をお送り下さい ❖

分析技術、研究、教育、ご提案など何でも結構です。分析に関する質問などは、ホームページに掲載することにより支部会員の方々からいろいろなご助言を頂いたり、新たなディスカッションに発展したりするなど、有意義な情報交換の機会になることが期待できます。皆様のお声をお届け下さい。(担当：庶務幹事・塩路)

❖ 編集後記 ❖

分析化学の力で、次の世代へより良い未来を！
そしていよいよ、九州新幹線全線開通が3/12です。
ぜひ鹿児島へお越し下さい！

支部ニュース発行担当：神崎 亮

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35, TEL: 099-285-8106
鹿児島大学大学院理工学研究科



2010 年度 日本分析化学会九州支部 事務局

〒 814-0180 福岡市城南区七隈 8-19-1 福岡大学 理学部 化学科
TEL: 092-871-6631 (代表)、FAX:092-865-6030 (理学部事務室)

支部長	山口敏男 (福岡大学理学部) yamaguch@fukuoka-u.ac.jp / 092-871-6631 内線 6224
副支部長	神崎 亮 (鹿児島大学大学院理工学研究科) kanzaki@sci.kagoshima-u.ac.jp / 099-285-8106
副支部長	柳 雅之 ((株)三井化学分析センター大牟田分析部) masayuki.yanagi@mitsui-chem.co.jp / 0944-51-8254
庶務幹事	塩路幸生 (福岡大学理学部) shioji@fukuoka-u.ac.jp / 092-871-6631 内線 6223
会計幹事	吉田亨次 (福岡大学理学部) kyoshida@fukuoka-u.ac.jp / 092-871-6631 内線 6241